

会議結果

次の附属機関等の会議を下記のとおり開催した。

附属機関等の名称	第2回みよし市総合計画審議会		
開催日時	令和5(2023)年3月1日(水) 午後3時から午後4時20分まで		
開催場所	みよし市役所3階 研修室4・5		
出席者	(会長) 伊藤久司 (職務代理者) 近藤元博 (委員) 井上将成、櫻井充、富樫佐智子、清田由雅、鰐部兼道、久野文仁、深谷彰子、日比野貴史、新谷千晶、竹谷明永、桐山直子、加藤正二、近藤憲司、岩田信男、三宅章介、伊豆原浩二、大野聡士 ※敬称略 (みよし市)酒井副市長、清水政策推進部長、伊藤政策推進部参事 (事務局) 海堀政策推進部次長兼企画政策課長、木戸副主幹、加藤副主幹、岡田主事		
次回開催予定日	令和5(2023)年7月頃		
問合せ先	政策推進部企画政策課 担当 加藤、岡田 電話番号 0561-32-8005 ファックス番号 0561-76-5021 メールアドレス kikaku@city.aichi-miyoshi.lg.jp		
下欄に掲載するもの	・議事録全文 ・議事録要約	要約した理由	
典 礼 海堀次長	<p>本日は大変お忙しい中、お集まりいただき誠にありがとうございます。定刻になりましたので、第2回みよし市総合計画審議会を始めさせていただきます。</p> <p>本日の審議会につきましては、「みよし市附属機関の設置及び運営に関する要綱」に基づき、会議を公開することとしています。御承知おきくださいますようお願いいたします。なお、傍聴者の方におかれましては、受付時にお渡ししました注意事項を厳守いただきますようお願いいたします。</p> <p>議事に入るまでの進行を務めさせていただきます、政策推進部次長の海堀と申します。どうぞよろしくお願いいたします。</p> <p>本日の出席委員は19名で、みよし市総合計画審議会条例第6条第2項の規定に基づき、委員の過半数の出席がございますので、本審議会は成立していることを御報告させていただきます。</p> <p>会議に先立ちまして、令和5年1月から委員の変更がございましたので、新たに委員に御就任いただいた方の御紹介をさせていただきます。お手元に委員名簿を配付させていただいておりますので御参照ください。トヨタ自動車株式会社大野聡士様です。よろしくお願いいたします。</p> <p>本来であれば市長が直接委嘱状をお渡しさせていただくところではございますが、あらかじめ机上に委嘱状を交付させていただいております。御理解のほどよろしくお願いいたします。</p>		

	<p>それでは、会議の開催にあたり、伊藤会長より御挨拶をいただきたいと思ます。よろしくお願いいたします。</p>
伊藤会長	<p>本日は、お忙しい中お集まりいただきありがとうございます。本日の日本経済新聞の一面を見まして、そのトップの記事が「出生数急減で80万人割れ」という記事でした。出生数が80万人を割るという事態が、国の推計より11年も早く訪れてしまいました。</p> <p>私は今、大学に勤めておりますので、18歳人口の推移についてはいつも注視しておりますが、18歳人口というのは当然ながら18年前の出生数に大きく関係するものですので、出生数についても関心を持っております。</p> <p>日本の出生数というのは、7年連続で過去最小を更新しておりますし、実際の出生数から死亡数を引いた自然減も過去最大となっております。少子化というものは、当然ながら社会保障の持続性を危うくしますし、何より活気がなくなってしまいます。成長が見込めなくなってしまうということになると思ます。</p> <p>国としては、岸田総理がよく「異次元の少子化対策」を行うとおっしゃっております。本日はみよし市の総合計画審議会ですので、ここではみよし市が活気にあふれて、今住んでいらっしゃる方々はもちろんですが、転居を考えていらっしゃる方々にも、みよし市が魅力あるまちであり続けるために、皆様の忌憚のない御意見を伺いたいと思っておりますので、本日はよろしくお願いいたします。</p>
典 礼 海堀次長	<p>ありがとうございました。それでは議題の審議に移らせていただきますが、審議会条例第4条第2項の規定により、会長に議事の進行をお願いしたいと思います。伊藤会長よろしくお願いいたします。</p>
伊藤会長	<p>それでは、限られた時間の中ですが、委員の皆様、十分に議論していただきたいと思ますので御協力をお願いいたします。それでは、議題1「みよし市の将来人口の見込みについて」事務局より御説明をお願いいたします。</p>
事務局	<p>企画政策課の加藤でございます。説明を務めさせていただきます。</p> <p>資料1の1ページを御覧ください。まず、現行計画では、将来人口の推計値について、基本計画の目標年次である令和10年は63,700人、基本構想の目標年次である令和20年は65,000人と推計しています。将来の人口見通しについての時点修正を行うにあたり、まず、令和4年4月1日時点における推計値と実績値を比較しますと、推計値の62,100人に対して、実績値は61,218人であり、882人少ない結果となっています。</p> <p>推計値と実績値の差について、右側の地域別の状況から詳しく見てみますと、きたよし地域については、推計値8,500人に対して実績値が8,840人、なかよし地域については、推計値23,000人に対して実績値が23,374人、みなよし地域については、推計値6,300人に対して実績値が6,446人となっており、それぞれ実績値が推計値を上回っている状況です。対して、おかよし地域につきましては、推計値24,300人に対して実績値が22,558人となっており、実績値が推計値を大きく下回っている状況であり、特に年少人口と生産年齢人口における推計値との乖離が大きくなっています。</p> <p>2ページを御覧ください。左側に平成29年から令和4年における行政区別の人口の増減率を図で示しています。おかよし地域においては、黒笹行政区を除き人口が大きく減少している状況です。また、平池や上ヶ池などのように昭和40年代に一体的に開発された団地においても人口が大きく減少している状況となっています。</p> <p>ページの右側では、おかよし地域における年齢3区分別の人口について、おかよし地域に属する行政区別に比較したグラフを記載しています。年少人口では、ひばりヶ丘行政区の減少が顕著であり、また、全体では人口増減率がプラスとなっている黒笹行政区においても年少人口は減少していることがわかります。生産年</p>

齡人口では、三好丘行政区の減少が他の行政区と比較して大きく、老年人口では、全体的に増加している中でも三好丘行政区の増加が大きくなっている状況です。

3 ページを御覧ください。本市における人口動向について御説明いたします。地域ごとの状況はそれぞれに異なっていますが、本市全体の人口がいまだ増加傾向にあることに変わりはありません。ただ、出生者数と死亡者数の差である自然増は明らかに減少傾向にあり、また、転入者数と転出者数の差である社会増減も近年は減少傾向にあります。このように、人口の伸びが鈍化傾向を示している状況において、令和元年度及び令和3年度においては単年度で市全体の人口が減少している状況です。

ページの右側では令和2年度に実施した国勢調査の結果から人口の移動状況について分析を行っています。左側の円グラフは、令和2年の時点で本市に住んでいる方が5年前、つまり平成27年にどこに住んでいたか、また、右側の円グラフは、平成27年の時点で本市に住んでいた方が令和2年の時点でどこに移動したかのグラフとなっています。本市においては、約2割の方が住所を移動している状況であり、その中でも県内他市町村との転出入が約1割となっている状況です。

4 ページを御覧ください。ページの左側は市外からの転入の状況、ページの右側は市外への転出の状況の表となっています。表を比較してみますと、左側の表において、県内他市町村から本市への転入では豊田市からの転入が最も多く、次いで名古屋市からの転入が多くなっています。また、右側の表において、本市から県内他市町村への転出では、豊田市への転出も数としては多いものの、名古屋市や日進市、東郷町などへの転出が多くなっている状況です。

5 ページを御覧ください。5 ページ及び次の6 ページでは空き家の状況及び住宅地価格の変動状況を分析しています。本市では空き家が年々増加傾向にあり、ページ右側になりますが、令和2年度に実施した空き家実態調査においては、空き家と判定された物件が186件で、地域別に見てみますと比較的新しい住宅地であるおかよし地域においても40件が空き家と判定されています。

また、住宅地平均価格につきまして、本市の住宅地平均価格は1平方メートル当たり116,500円となっており、近隣と比較して中間程度に位置しています。平成30年と比べて住宅地価格の上昇幅が大きい刈谷市、長久手市、日進市などはこの間の人口の増加率も大きい傾向にありました。本市の住宅地価格も新型コロナウイルスの影響により全国的に地価が下落した令和3年を除いて上昇を続けてはいますが、上昇幅は小さくなってきています。

7 ページを御覧ください。将来の人口推計については、現計画と同様の推計手法を用いて推計を行っています。人口推計の基礎となる値について、まず、基礎人口は令和4年4月1日現在に更新しています。転入と転出の差で求める移動率は、新型コロナウイルス感染症の影響を受ける前の各5年間の移動率の平均値を求めて、令和5年度以降の移動率として仮定しています。生残率、出生率、出生性比については、国立社会保障・人口問題研究所の推計における仮定値に更新しています。また、現計画の人口推計と同様に開発事業による人口増加については考慮していません。

推計結果が8 ページ以降のとおりとなります。まず、総人口について、令和4年時点で現計画の推計値を下回っているため、今後も現計画の推計値より少ない人口で推移していくことが見込まれます。基本構想の目標年次における想定人口65,000人には及ばない推計となっておりますが、今後も子育て支援など人口増に資する施策の展開を図ることにより人口の伸びを維持していくこととし、基本構想の目標年次における想定人口は変更しないこととします。ただし、後期基本計画においては、計画の目標年次である令和10年度に対して、今回の推計結果を参考指標として示して、見直しを行っていく予定としています。

8 ページ下段には地域別の人口推計結果を、9 ページには5歳階級別の人口ピラミッドのグラフを、最後10ページには市全体及び地域別の年齢3区分別人口を

	<p>それぞれまとめています。 議題1「将来人口の見通しについて」の説明は以上です。</p>
伊藤会長	<p>それでは、今の御説明について何か御不明な点や御質問等ございますか。冒頭の御挨拶で申し上げましたように、国としてはもう自然減ですが、まだみよし市としては自然増の状態ではありますが、増の割合とといいますか、数的にはやはり縮小傾向にあり、減少に向かっているという傾向はあります。 当初の推計よりもやはり少し低い、悪い方のシナリオで動いているという御説明だったと思います。この後の数値の扱いについても御説明していただいたとおりにしたいと思います。ここに関しましては、よろしいでしょうか。</p>
伊豆原委員	<p>推計値が良い悪いの話はしても意味がないと思うんですね。ただ問題は、みよしの場合、高齢者の割合が随分低い状況が続くという想定がされているわけですね。ただし、地域によってかなり格差が出てきているというのが現実だと思います。 だから、総人口についてここで話をするのか、次の事業展開のところで話されるのかはちょっとわかりませんが、総人口の話と計画の話とをリンクさせるのはなかなか難しいです。個々の施策のところ、今の人口の中身をどう見ていかかということになるのではないかと思います。 今の御説明だと、トータルの話としてはわかりますが、そこをどのようにこれから施策に反映していくかという辺りで議論されると、この話が繋がっていくのではないかと思います。</p>
伊藤会長	<p>ありがとうございます。議題としては3番目になると思いますが、その中で、伊豆原委員がおっしゃっていただいたようなことを議論していただければと思います。</p>
事務局	<p>御説明させていただきましたように、地域別には人口の状況はそれぞれ違いがございます。特におかよし地域のように、一体的に住宅地開発がされて、多くの方が一斉に入ってきているところでは、やはり高齢化もある時点で一気に進んでいく、またはもうすでに始まっているという状況になってきています。 これからそれぞれの地域にどういった施策を打っていくのがよいのかについては、それぞれの地域に対して考えていく必要があると考えております。ありがとうございます。</p>
伊藤会長	<p>よろしいでしょうか。</p>
各委員	<p>《意見なし》</p>
伊藤会長	<p>それでは、議題2「第2次みよし市総合計画後期基本計画策定のための市民アンケート調査結果について」事務局より御説明をお願いいたします。</p>
事務局	<p>議題2「第2次みよし市総合計画後期基本計画策定のための市民アンケート調査結果について」御説明をさせていただきます。 資料2の1ページを御覧ください。現行計画に定めて本市が実施している取組に対する市民の満足度や重要度、また、これからのまちづくりに対する市民の意識を把握し、後期基本計画策定の基礎資料とするため市民アンケートを実施しました。 アンケート調査は、18歳以上の市民から無作為に2,500人を抽出して、郵送により調査票を配布し、調査票は、郵送による回収のほか、インターネット回答を併用してアンケートの回答を行っていただきました。アンケートの配布数2,500に対して回収数は1,121で、回収率は44.8%となりました。 2ページを御覧ください。回答者の性別では、男性より女性の比率が少し高く</p>

なっています。また、回答者の年代につきまして、割合は円グラフのとおりですが、調査票の配布数に対する回答率は、年代が高いほど高くなっている傾向にあります。居住地については本市の地域ごとの人口構成と比較して極端な差異はありませんが、おかよし地域の回答率が他の地域と比べて若干高くなっている状況です。

ページ右側の回答方法につきまして、毎年度実施している行政評価アンケートにおいて令和2年度実施分からインターネット回答を導入しており、今回のアンケートでもインターネット回答を導入しました。50歳代まではインターネット回答の割合が40%を超えていますが、年代が高くなるにつれてインターネット回答の割合は低くなっているという結果となっております。

以降、調査結果について御説明させていただきます。

初めに3ページを御覧ください。みよし市の住みやすさについての調査結果です。「大変住みやすい」または「どちらかといえば住みやすい」と答えた人の割合が合計で86.4%でした。右下の前回調査と比較してもほぼ同じ割合となっております。居住地別や年代別の集計はグラフのとおりですが、年代別において、18歳から29歳までの年代と75歳以上の年代において、大変住みやすいと答えていただいた方の割合が他の年代よりも若干高くなっています。

4ページを御覧ください。「住みやすいと思う理由」と「住みにくいと思う理由」についての調査結果です。住みやすいと思う理由の上位は「自然環境」が最も高く、次いで「住環境」となっています。反対に、住みにくいと思う理由の上位は、「電車やバスなど交通の便」が最も高く、次いで「買い物や外食の利便性」となっています。ページの右側のグラフで前回調査との比較を行っていますが、それぞれの上位の理由に大きな変化は見られませんでした。若干変化が見られる項目として、右側のグラフの住みにくいと思う理由の中で、2番の「住環境」や10番の「安全面」の割合が少し高くなっていること、3番の「医療・福祉サービス」や8番の「体育館や図書館などの施設」が少し低くなっていることが挙げられます。

次の5ページでは、住みやすいと思う理由及び住みにくいと思う理由について地域別に上位5回答をまとめています。全体の結果と比較して、住みやすいと思う理由では、おかよし地域以外の地域では「住環境が良い」に対する回答割合が低くなっています。きたよし地域となかよし地域では、「買い物や外食が便利」が上位5回答に入っています。また、みなよし地域では「働く場所がある」が上位5回答に入ってきています。住みにくいと思う理由では、どの地域も上位2つの理由に全体との相違はありませんが、おかよし地域においては「買い物や外食が不便」の割合が、また、みなよし地域においては「電車やバスなどの交通の便が悪い」の割合が特に高くなっています。

6ページを御覧ください。今後の居留意向についての調査結果です。「今後も住み続けたい」または「どちらかというとい住み続けたい」と答えた人の割合は合計で89.5%でありました。ページ右下の前回調査との比較においては、こちらもほぼ同じ割合となっております。居住地別や年代別の集計はグラフのとおりですが、居住地別のグラフにおいて、おかよし地域の「今後も住み続けたい」と回答した人の割合が他の地域と比べて低くなっています。

7ページを御覧ください。前回の総合計画審議会において御意見をいただき、今回の調査では新たに総合計画の認知度についての設問を設けました。全体的に認知度はあまり高くない傾向となっておりますが、特に18歳から29歳の若い世代で認知度が低い結果となっております。

8ページを御覧ください。このページでは、基本計画に掲げる48の取組分野及び取組項目について満足度と重要度をページ下段、点線枠内の算出方法により指数を求め、中央値を境としてAからDの区分に振り分けています。Aの区分は、重要度が高いものの満足度が低く重点的に取り組む必要があると評価される区分です。Bの区分は、満足度が高く市民から一定の評価をいただいておりますが、重

要度も高く今後も継続的に満足度を得られるよう取り組んでいく必要があると評価される区分です。Cの区分は、重要度と満足度がともに低くなっており、施策の必要性を検証しつつ、市民の満足度を得られるように取り組んでいく必要があると評価される区分です。Dの区分は、重要度が低いものの満足度が高く、一定の成果が得られている取組であり、継続して取り組んでいく必要性を検証すべきと評価される区分です。すべての取組がAからDの区分に振り分けられることとなりますが、中央値を境としていますのであくまでも48の取組の中での比較となり、また、中央値に近い取組については他の区分との差は小さくなります。

それぞれの取組がA B C Dのどのゾーンに区分されているかについてはページ右側の表に記載のとおりです。Aの区分には、高齢者福祉をはじめとして9つの取組が区分されています。また、Bの区分には子育て支援をはじめとして15の取組が区分されています。

9ページでは、基本計画に記載する18の施策についての満足度と重要度について、こちらについては指数化せずに回答割合をそのままグラフにしています。御確認をいただきますようお願いいたします。

続きまして、10ページを御覧ください。10ページから13ページは各取組の満足度及び重要度を総合計画の認知度と重ねてグラフにしたものです。それぞれのグラフを見てみますと、ページ右側の重要度のグラフについては認知度の違いにおける差はあまり見られませんでした。ページ左側の満足度については、認知度が高くなるほど「普通」の区分の回答割合が小さくなっていることがわかります。計画の内容を知っていただくことでそれぞれの取組について「満足」または「不満」の評価を行っていただくことができるため、計画内容をしっかりと周知していくことが重要であることがわかります。

14ページを御覧ください。本市の将来都市像についての調査結果です。右側のグラフは、選択肢が多く、わかりづらくなっていて大変申し訳ありませんが、年代別のグラフにおいて、30歳代までで「子育てがしやすい」の回答割合が非常に高くなっています。また、年代が高くなるにつれて「医療・福祉サービスが充実している」や「まちが安全・安心である」についての回答割合が高くなっています。「電車やバスなどの交通の便が良い」については、どの年代においても、全体的に回答割合が高い状況です。

15ページを御覧ください。前回調査との比較のグラフになります。「自然環境が良い」や「医療・福祉サービスが充実している」の割合が高くなっている反面、「まちが安全・安心である」の割合が低くなっています。

16ページを御覧ください。「こんなまちにしたい」という自由記述の部分について、主な回答を分類ごとに抜粋してまとめています。非常に多くの御意見をいただいていますので、後期基本計画の策定にあたっては、これらの意見を参考にし、策定を進めていくことができると考えていますので、よろしく願いいたします。

17ページ及び18ページでは、まちづくり活動への参加についての調査結果をまとめています。新型コロナウイルスとの関連性についてははっきりしない部分はありますが、前回の結果と比較して参加実績及び参加意向とも全体的に減少している傾向にあります。

19ページ及び20ページでは、その他の取組についてのアンケート結果をまとめています。今回のアンケートを実施するにあたり、庁内の担当課からも意見を募集しまして、アンケートを作成させていただきました。調査結果につきましては担当課へ報告し、今後の事業検討の参考とさせていただきたいと思っております。

21ページから28ページまでは参考までに今回送付したアンケート調査票を添付しています。

議題2「第2次みよし市総合計画後期基本計画策定のための市民アンケート調査結果について」説明は以上です。

伊藤会長	ありがとうございます。それでは今の御説明について何か御不明な点や質問等はございますか。
三宅委員	<p>ちょっとお伺いしたいのですが、データを見る限りにおいては、みよし市は住みよいというように思います。ただ、この中でも欠けているのは、潤いのあるまちというイメージがないのではないかと思います。確かに住むには機能的でバスの便利がよいとか、交通の便がよいとか、買い物の便利がよいとか、これは非常に住みよいということになると思います。</p> <p>ただ、どうでしょうか。我々がほっとするのは、まちに潤いがあるというのは、やはり文化的なものだとか、そういうものが大事ではないかと思います。残念ながら、みよしにはそういう歴史的なものはあまり残っていない気はします。住んで非常に良かった、便利が良かったというのは確かにそうですが、そこで長く生活するという場合には、歴史というものが人々に落ち着きや心の豊かさをもたらすと思います。それがこのアンケートでは欠けているのではないかと思います。</p> <p>みよしは、商店街が一つもないですね。私は旅行や出張のときなどによくまちを見ますが、ほっとするのは商店街があるまちで、一つの潤いをもたらしてくれます。それはモールのようなものではないですね。そういうようなまちづくりをやるとか、秋頃に開催される祭りなどの掘り起こしをする。また、古い民家や文化財を大事にしていくとか、そのようなことがこれからのまちづくりに必要ではないかと思いました。</p> <p>確かにみなよし地域には工場もたくさんありますし、仕事をするにも非常に適しているのですが、それは機能的な住みやすさではないかと思います。ちょっとそういうことが、このアンケートでは欠けているというように思いました。みよし市というのはそういうまちなのかなという思いが反映されているような気もしました。</p>
伊豆原委員	<p>私は、みよし市地域公共交通会議のお手伝いをしていますが、「電車やバスなどの交通の便が悪い」が住みにくい理由のトップに入っていることに対しては責任を感じてしまいます。</p> <p>少し気になるのが、住みやすい理由の居住地別の結果において、おかよし地域では「住環境が良い」という評価をいただいているにも関わらず、「今後も住み続けたい」という回答はおかよし地域が1番低いという結果をどう解釈していくか。電車やバスなどの交通の便が悪いというのは、どこの地域でも高くなっている場合が多いのですが、どういった形で便が悪いのかなど、もう少し分析を事務局にお願いしたいと思います。住みにくい理由の上位3位でも5位でもよいですが、どこが原因なのかを少し分析していただきたいです。「住環境が良い」と評価をしている地域が、「今後も住み続けたい」という希望が一番低いという話はどうか考えたらよいのかなと思いました。</p> <p>このアンケートで得られた皆さんの御意見をどう上手く反映していくかを検討されるにあたり、視点を押さえて、クロス集計など分析をしていただくことが必要になるとは思いますが、事務局にお願いしてもよろしいでしょうか。</p>
事務局	どこまでできるかわからない部分はありますが、一見矛盾するような回答の結果に対しては、なぜこのような回答になっているかについて考察を深めていきたいと思えます。
伊豆原委員	これから分野別の計画を検討する段階には、今、三宅先生もおっしゃっていたように、ちょっと視点を変えてみて、こういう風にみたらどうかというような提案ができるといいかなと思いました。
三宅委員	これは単純集計ですね。クロス集計をしているわけではないので、例えば、反対のものと賛成のものがあれば相関係数をとってみる。また、住みやすいという回答には、どういう要因が一番効いているのか。それは多変量解析をすればすぐ

	<p>に出てきます。</p> <p>専門的になりますので、皆さんには結果だけお示しすればよいと思いますが、せつかくこれだけのデータをとられたので、相関係数をとってみるとか検定するとか、重回帰分析や主成分分析、因数分析などいろいろあります。コンピュータで容易にできますので、これからやっていただくことを期待したいと思います。</p>
伊藤会長	事務局は、可能性としては検討いただけるということによろしいでしょうか。
事務局	はい。頑張りたいと思います。
鰐部委員	<p>アンケートからはいろいろな意見が出てきているわけですが、個々の地域から出てきているものというのは、住民のアンケートですから、要するに我田引水で自分のところがいかにいいまちになりたいかというのが基本になってしまいます。</p> <p>やはり市として考える必要があるのは、このみよし市を総合的に大きく見据えて、本来のみよし市の核はどこなのか。どこに核を持っていき、どのような交通体系をするか。今、さんさんバスはほとんどガラガラです。乗っているのは1人か2人です。このような状況では全然やっても価値がない。やはり経路だとか、どこへ集中しているのか。市役所に来る人、イオンに来る人、病院へ行く人など、あまりにもたくさん網羅しようとするため、大回りすることになり、時間もかかるなど、いろんなことが起きてしまう。</p> <p>要は中心がないわけです。だから、みよし市の総合的な核になるまちをどこにするべきか。これを市役所が考えて、黒笹や三好丘の駅周辺がこれから開発の拠点になると思いますが、どこかに一つ大きな核を作ってやっていかないといけないと思います。そうしないと、あちこちからいろんな意見が出てくるような状況になりますので、市役所としてはこれを一步上の立場から見ていただいて、確かに皆さんの意見はたくさんあるかと思いますが、総合的に考えるべきではないかと思います。</p>
事務局	<p>ありがとうございます。公共交通につきましては、私ども企画政策課で取り扱っている事務で、どのようにするのがよいのかについては頭を悩ませながら、頑張っているところでございます。</p> <p>また、今年度路線再編もさせていただきまして、皆様から少し評価をいただいているところもでございます。時間帯によってはあまり人が乗ってないのではないかとと思われるところもあるかもしれませんが、コロナで利用者数がものすごく落ち込んでいる状況がありながら、さんさんバスは少し回復傾向にあるところもございます。今後も利便性の高い公共交通を目指して頑張っていきたいと思っておりますのでよろしくお願いいたします。</p>
伊藤会長	ありがとうございます。他に何かございますでしょうか。
各委員	《意見なし》
伊藤会長	<p>一つ目の議題もそうでしたが、このアンケートの結果も含めて、次の議題3で具体的にどのような形のものを検討するべきかという御議論もさせていただくことになると思いますので、議題2につきましてはここまでとさせていただきます。</p> <p>それでは続きまして、議題3の「第2次みよし市総合計画前期基本計画の評価結果について」事務局より御説明をお願いいたします。</p>
事務局	<p>議題3「前期基本計画の評価について」御説明いたします。</p> <p>資料3の1ページを御覧ください。前期基本計画の評価にあたっては、48の取組分野または取組項目ごとに「評価検証シート」を用いて、「目標指標」の達成状況や「主な取組」の進捗状況を評価するとともに、積み残し課題や今後の方針、</p>

	<p>後期基本計画に新たに位置づける取組などを把握、分析しました。</p> <p>2ページを御覧ください。評価検証シートの様式を掲載させていただいています。評価検証シートは作業部会を中心として作成を行いました。シートの右上には、市民の評価として、取組ごとにアンケート調査に基づく満足度と重要度の結果を図に示しています。</p> <p>目標指標の評価につきましては、原則として令和4年度の実績値等から、中間年である令和5年度見込みを示し、目標値との比較をすることでAからDの評価基準で達成度を評価しています。</p> <p>主な取組の評価につきましては、主な取組に記載している事業などに対するこれまでの成果を記述し、こちらもAからDまでの評価基準で進捗状況の評価を行っています。また、主な取組のそれぞれにつきましては、積み残し課題や今後の方針について記述しています。</p> <p>シートの最後では、各取組分野の目標達成に向けて後期基本計画で新たに位置づけるべき取組として、現行計画策定以後に社会情勢の変化などから新たに取り組んできた事業やこれまでの成果や積み残し課題から基本計画の計画期間である令和10年までの5年間に取り組む事業について記載しています。</p> <p>次の3ページ及び4ページが評価結果をまとめた総括表で、5ページから資料の最後までは順番に個別の評価検証シートを添付させていただいています。</p> <p>評価結果につきましては総括表に基づいて御説明させていただきます。まず、取組分野の中で、中間年における目標指標の達成状況が現状値を下回る見込みとなった、CまたはDの評価となった取組が、広域交流や介護、地域医療をはじめとして14項目ありました。この中で、広域交流や防災・減災、観光・魅力発信、公共交通などは事業やイベントの参加者数などを目標指標に掲げているため、新型コロナウイルスによる影響を大きく受けていることもあって、達成度の評価が非常に困難になっている状況も見受けられます。また、すでに中間年の目標値を上回っている取組分野も多くありますので、今回の評価結果に基づいて、後期基本計画の策定においては目標値の見直しを行っていく必要があると考えています。</p> <p>また、主な取組については、それぞれにこれまでの成果と積み残し課題や今後の方針を記載していますので、今後、基本計画の目標年次である令和10年度までの5年間で具体的に取り組んでいく事業について、現状と課題を分析し、計画に記載していくよう努めてまいります。</p> <p>議題3「前期基本計画の評価について」の説明は以上です。</p>
伊藤会長	<p>ありがとうございます。一つ一つについては非常に多くありますので、皆様のお手元には事前にこの資料が届いて、お目通しをいただいていると思いますので、見ていただいて、御質問等や御不明な点、もしくは御提案等がございましたら、何なりといただければと思います。</p>
近藤委員	<p>この総合計画とどう絡むかわかりませんが、自分が区長をやっていたときに、「組から出たい」とか、「よそへ引っ越したい」という人が区長のところへ来るわけです。基本的に、住みやすいか、住みにくいかというのは、お隣さんとかその地域との関わり合い、顔と顔です。</p> <p>今、三宅委員から御意見のあった「潤いのあるまち」という観点では、この基本計画には、人と人とがどう繋がっていくかという、行政的には非常にサービスが見えない部分だと思いますが、本当にこの地域が良かったとなるのは、お隣さんとの顔と顔、フェイストゥフェイスの関係が一番住みやすいのではないかと。地域と一緒に自分が共同体の中で活動しているという意識があったら、多分みんな「このまちはいいまち」だと思います。</p> <p>だから、バスがあるとか電車があるとかではなく、まずお隣さん同士と一緒に助け合っている観点をどう行政がサポートするか。行政的には税金をどう使うかは非常に難しいわけですが、やはり高齢化社会になると、病院とかそういうも</p>

	<p>のではなく、みんなでどうサポートできるかという観点が行政に必要であると思います。</p> <p>おかよし地域において、人がなぜ出ていきたくなくなるかという、近くを集える場所がない。お隣さん同士で顔を合わせて話す場所がない。コンビニも遠くへ行かなければならない状況です。散策路など良い場所があると自慢をされますが、自分が散歩するのはいいかもしれませんが、お隣さんと一緒に集える施設はないんですね。寝に帰るといふ発想で作られたまちであると思います。</p> <p>だから、次のアンケートでは、どういう関係があるまちが住みやすいのかなどについて尋ね、皆さんが本当に住みやすいまちについて分析していく必要があると思います。</p> <p>アンケート結果に基づいて数値化できると、行政的には予算を組んで、このように施策して税金を使ったと説明するのはかっこいいかもしれませんが、本当に住みやすいまちというのは、数値化できない部分の、こういう人との関わり合いの世界だと思います。そういうものが市の基本のベースにないと、暮らしやすいみよしにはなっていないのではないのでしょうか。</p> <p>個人的な考えではありますが、おかよし地域には、車で通っても住みたいとは思えません。家が建っているだけで、文化施設やお宮やお寺もない。そのような感じのまちになってしまっているような気がします。</p>
酒井副市長	<p>ありがとうございました。今おっしゃられた点は、重要な観点であると思います。ただ、おそらくその辺りについては、行政の一番苦手な部分といいますか、かゆいところに手が届いていないところのように思います。</p> <p>先ほどからの「潤い」についても同様ですが、これまでにはなかった視点ですので、そういった部分も含めてもう少しいろいろ検討させていただきたいと思います。</p>
伊藤会長	他に何かございますか。
富樫委員	<p>潤いのあるという言葉が出てきましたので、文化協会の立場から述べさせていただくと、みよしの行政は文化的なものに対して御理解いただいております、西三河の他の地域と比べても手厚くやっております。</p> <p>これまではサンライブだけで講座をやってきましたが、4月からは新しくできたおかよし交流センターでも講座をやる計画ができました。また、文化協会の指導者も大分育っていますので、学んだものを生かして、みよし市に文化的な面で恩返しをするために、講師を頼まれて出かけるという形をとるようになっていきます。本当に見えない部分を評価していただいていると感じており、ありがたい気持ちでいっぱいです。</p> <p>バスについても言わせていただきますと、私は後期高齢者になって、まだ車に乗っていますが、私の周りにもバスを使う人が増えています。みよし市民病院に来た人が、家に帰らずイオンまで行こうとするときには、時刻表も持っていらっしゃるし、市民病院の中にデジタルの時刻表が出ていますので、あれを皆さん見て、上手に使っていらっしゃるなという思いを私はしております。私も1回は時間を作ってバス乗ってみようと思いますが、まだなかなか時間が取れずに乗っていません。</p> <p>再編の計画があることは聞いていましたが、どのように路線を再編されるのかと聞いていたところ、路線を分けられて、乗継スポットができましたが、再編された方の御苦勞を考えると、御苦勞が少しずつ市民に行き渡ってきているのではないかという思いで拝見させてもらっていました。</p>
事務局	<p>ありがとうございます。先ほどの近藤委員のお話にもありましたように、三好丘地域は、以前はやはり働く人のまちだったわけですが、これからはその方たちが皆さん退職等をされて、高齢の方たちが地域の中で寄り添って暮らしていける</p>

	<p>ようなまちへと変わっていく必要があると思っております。</p> <p>おかよし交流センターの中においても、そういった集えるような講座等を行っていくことは今後の施策において重要なものになっていくと感じておりますので、よろしく願いいたします。</p>
伊豆原委員	<p>評価は評価で、次にどうするか。P D C Aとよく言われていますが、今回C（チェック）まで来ました。今度はA（アクション）に結びつける作業をどうやられるのでしょうか。今回、A、B、C、Dと自己評価して、順番、順序をつけるのは良いのですが、Aだったら良いのでしょうか。また、CやDの評価はやっていないが、今までやらなかったから次は形を変えるのか、あるいは形はそのままにして動いていくのか。Aはよくやったからそのまま継続するのかなど、いろんな考え方が出てくると思います。</p> <p>この評価結果についてここで議論するのは辛いので、どのように評価結果を使うのかについて、ぜひ事務局から示していただけるとわかりやすいと思います。コメントでも構いませんので、次のステップへ向かう示唆があったら教えていただけるとありがたいと思います。</p>
海堀次長	<p>今おっしゃられた御意見ですが、今回は計画の見直しの前段となります。アンケート調査をさせていただきまして今までどうだったのか、また、過去5年間の実態はどうだったのかというところが評価、まさにチェックだと思えます。</p> <p>今後どうしていくのかというところは、来年度から揉んでいくところだと思います。実際に皆さんに参加していただいている審議会の1回目に策定スケジュールをお示しさせていただきましたが、市の当局でも、副市長をトップとする総合計画策定本部において、まさにアクションだと思いますが、今後どういう政策をしていくかを話し合います。その下には部長級の各専門部会があります。さらにその下にも課長、次長級でやる作業部会があり、実際に細かいところをどうしていくかという話し合いをします。</p> <p>先ほどのアンケートについて、例えば、住環境は良いが住みづらいという結果について、それはなぜかというところ、例えば愛着がわからないというところがおそらくあると思います。そういうところに着目したアクションはどうしていこうか、また、潤いをどうしていこうかというところは、市役所の中で細かいところの積み上げを行い、策定に向けての報告については、来年度は審議会を4回予定していますので、審議会においてその都度報告させていただきます。アクションに関するいろいろな御意見はそこでいただきたいと思っておりますので、よろしく願いいたします。</p>
三宅委員	<p>私はみよしに来て36年目になります。その時はもう山だらけで何もありませんでした。私が務めている都市計画審議会では、毎年1回研修しており、何年前前に三重県の大山田団地に行った覚えがあります。作った当時はものすごく広大で、名古屋に近く、急行バスが出ていて非常に便が良かったのですが、いつの間にか高齢社会になり、団地は高齢者ばかりになり、隣に新しい団地を作ったという話を聞きました。</p> <p>これから少子高齢社会を迎えて、コロナの関係で出生率が下がっている中で、いずれ三好丘の団地も子どもたちが大きくなったらおそらく外へ出ていくと思います。もともといろいろな家族が住む家ではなく、一軒家ですから、子どもが大きくなったら、就職等で外へ出ていく。みよしで親と一緒に住むことはまずないのではないかと思います。</p> <p>そうすると、もう今から、三好丘の住宅地というのは高齢者ばかりになるので、それをどうするかを真剣に考えないといけません。駅もあるし、スーパーがあって便利が良いと言っても、高齢者ばかりになって、若い人たちが出ていってしまい、先ほど申し上げた三重県の団地と同じようなことになると、今から状況変化というものをよく考えて、総合計画を作る必要があるのではないかと思います。人口推計のこともあったものですから、話が違っていたらお許しください。</p>

<p>日比野委員</p>	<p>市街地整備の観点でちょっと教えていただきたいと思います。達成度はAということで、みよしの中部特定土地区画整理事業も今年度で完了すると思うのですが、それに反して、人口のピークが伸び悩んでいるというようにも伺えますが、今後、人口フレーム等もあって難しいかもしれませんが、新市街地を増やしていくのか、それともは既成市街地の方を開発されるのか。今、公表できるような方針はあるのでしょうか。</p>
<p>事務局</p>	<p>計画的に住宅地開発等を行う地域、都市計画の変更といったもので、着手している部分はあります。ただ、そういった住宅地は、やはり今までと同じように、新たなところに一気に人が入ることになってきますので、今ある住宅地に対して、今後どうしていくのか、住みかえを進めるような形などに対しての施策は、特に三好丘地域については必要になってくると考えております。</p>
<p>伊藤会長</p>	<p>ありがとうございます。他にどうでしょうか。</p> <p>先ほどありましたように、これまでのチェックを踏まえた上でのさらなる細かなアクションというのは、まだこれからということでしたが、3番目の「目標達成に向けて後期基本計画で新たに位置づける取組」については、実際に社会情勢の変化等で位置づける方向で考えられているものであり、一つのアクションだと思いますが、これは市役所の方で考えられているものです。審議会にはそれぞれの立場で御出席いただいていますので、それぞれの立場から、その分野の評価ですとか、今後の新たな取組についての御意見をいただきたいと思います。全く別の分野でも構いませんが、まずはそれぞれの関係のある分野で御意見等があれば伺っておければと思いますが、どうでしょうか。</p>
<p>近藤委員</p>	<p>昨日もちょうどこの時間帯に教育委員会の教育プランの見直しの会議がありました。基本的な議題は「ふるさとみよしを実感する」ということです。教育委員会でもみよしの教育に関するアンケートをして、みよし市のどこがよいかなどありましたが、一番基本の、みよしが昔からどう繋がって現代があるかというところの施策が、他の市町村と比べて非常に遅れているように感じます。小さな町でも資料館がしっかりあり、古代石器から現代に至るまでを展示して、子どもたちがそこへ来たら実際に学べる施設があります。</p> <p>他の人口6万人の都市の資料館の1部屋分が、みよし市の現在の資料館1個分に該当すると思います。人口6万人だったら、今の資料館の大きさを1部屋とすると、6つや7つぐらいの部屋を設けて展示して、そこを一回りすると、「おらがみよしはこうなってきた」、「石器はここで出ていた」、「陶器は、みよしでたくさん出たものは、嵯峨天皇の官窯のものを焼いて、ここで絵付けされた最高級ものが日本の全国へ広がっていった」ことなどがわかるようになると思います。</p> <p>よその地域では、大体3年生や4年生が資料館へ行くと、半日は学習できるものが並べてあります。みよしにおいても、「私たちのみよし」という冊子が3、4年生向けにあります。資料館に行ったら、そうした冊子に載っているものをそこで見て学んで説明を受けて体験できるスペースが作られていますが、残念ながら10分で見終わってしまいます。学校から行こうにもバスの発着場がありません。</p> <p>今、検討会で見直しをしていますが、やはり愛着のあるみよしについて市の全体の中で見直されて、「おらがみよし」と実感できるものがが必要です。福谷城がありますが、ほとんどの方は知らないです。大抵のところは堀まで再現して昔こういう城があったと書いてありますが、福谷城の場合は、堀の跡を示す案内板や説明はありません。現在残っているものに関しても、現地には案内も何もありません。猿投窯の展示も現地にほとんどありません。これはこの近辺では珍しく、歴史的なものを見る場がない。</p> <p>この間、資料館で大岡越前に関する資料を数多く集めて特別展を開きました。岡崎が大岡越前の展示をやったときは、何万人もの方が見に来ましたが、みよしには大岡藩の殿様の子孫がいらっしゃったにも関わらず、何百人ぐらいしか見に来られませんでした。よそは万規模で企画展に来ますが、それぐらいみよしの伝</p>

	<p>統的なものがほとんど知られてない状況です。</p> <p>住みやすいみよしということが小さいうちから子どもたちが実体験できるような、ペーパーの冊子ではなく、実物のものがが必要です。いいじゃん踊りの大提灯では弱いような気がします。それは教育委員会で言っても難しいので、やはり市の総合計画の中に、住みやすいみよしの中に、私たちのアイデンティティとしてのみよしを体感できる施策が必要だと思います。</p> <p>豊田市には棒の手会館があります。本多静雄さんの古窯のコレクションもあります。郷土資料館もありますし、今度、大きな博物館も作られますね。それに対抗するまでもないとは思いますが、そういうものは必要だと思います。</p> <p>今年と昨年、士別市へ行かせていただきましたが、人口2万人の士別でもはるかに大きなものがありました。先人が苦労して開拓したということが、黙っていてもわかる施設があり、馬車鉄道まで置いてあります。ああいうものがないと、行政的には、住みやすいみよしとしていくにはちょっと弱いと思います。やはりそういう施策もこの中に入ってくるとよいと思っております。</p>
伊藤会長	<p>来年度の審議会につきまして、今進行中の基本計画の中で実施できるもの、その範囲の枠組みの中で、今おっしゃっていただいた意見が反映できればよいのではないかと思います。</p> <p>基本は、今、実行されている基本計画に沿って、あと5年やっていくという話だと思います。その枠組みの中で、今貴重な御意見をいただきましたので、位置づけられるところがあれば位置づけていただいて、次の5年間に向けての目標になるように考えていただければと思います。</p> <p>本日事務局から準備されました議題は以上ですが、全体を通して何か御不明な点ですとか御質問等がございますでしょうか。</p>
久野委員	<p>アンケート結果について、市民の方にどう公開されるのでしょうか。また、アンケートの回収率に対してどう評価されていらっしゃるのでしょうか。自由意見を書くところがありますが、自由意見でどんなものがあつたとか、市はこういうことをやっていますがこんな結果でした、というような報告はどういう形でされるのでしょうか。</p>
事務局	<p>アンケートにつきましては、2,500名の方を無作為抽出して、1,100あまりの方に回答いただき、回収率44.8%になっております。アンケートの内容が非常にボリュームの大きいものでして、郵送で受け取られた方はなかなかこういったアンケートに答えていただくのが難しいことが想定される中で、44%以上の方に御回答いただけたということは、非常に有効なアンケートができた事務局としては評価をさせていただいているところでございます。</p> <p>アンケートの自由意見については、今回抜粋して一部だけ載せさせていただいておりますが、非常に多くの意見をいただいております。具体的なことから、大きなことまでいろんな意見がありまして、今後の計画策定に対して非常に参考となる、また考えていかなければならないと改めて思われるようなところもございますので、しっかりと計画に反映していきたいと考えております。</p> <p>アンケート結果の公表につきましては、計画の参考資料の部分で載せさせていただきます。市役所庁内での共有については、この結果をまとめ次第、実施させていただく形になります。</p>
海堀次長	<p>市民への公表については、このアンケート自体が評価、また今後の施策の前段になります。アンケートの結果をもとにやっていくという意味の基礎資料となるものですので、実際に計画ができたときに、アンケートの結果をもとに計画の見直しを行ったという基礎資料として公表してまいります。</p> <p>先ほどのアクションの部分で来年度検討していく前に、アンケート結果を公表していくことは今のところ考えておりません。</p>

伊藤会長	他に何かございますでしょうか。
各委員	《意見なし》
伊藤会長	本日の議論はここまでとさせていただきます。それでは事務局に進行をお返しします。
典 礼 海堀次長	<p>ありがとうございます。様々な御意見を今日いただきました。アンケートの分析から始まり、先ほどの公表の部分まで、今日いただいた御意見は、来年度始まってすぐに総合計画策定本部が市役所の中で開かれますので、こちらの方で必ず議論しますので、よろしく願いいたします。</p> <p>また先ほども少し触れましたが、来年は4回の審議会を開催していただきたいと考えております。その最初が令和5年7月を予定しております。詳細につきましては後日、事務局の方から御連絡させていただきたいと思っております。今後は7月、おそらく8月、10月ぐらいで開催して、そのあとパブリックコメントを実施して市民の方から御意見をいただきまして、最終的には2月ごろに答申をしていただき、その後、計画の公表という流れになっておりますのでよろしく願いいたします。</p> <p>以上をもちまして、第2回みよし市総合計画審議会を閉会いたします。 ありがとうございました。</p>